

平成27年11月24日
(2015年)

保護者の皆さまへ

吹田市立青山台中学校
校長 田 中 実

平成27年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、3年生を対象として「平成27年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・数学・理科に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1. 教科に関する調査結果の分析

(1) 国語

① A 区分問題（『知識』に関する問題）

《概要》

生徒の平均正答率は、全国値をやや上回っていることから、出題された学習内容を理解していると考えられる結果であった。

《各領域の成果と課題》

話すこと・聞くこと

「相手の反応をふまえて話す」という問題は、ほぼ全員が正しい選択ができ、正答率が高くよくできていた。しかし、「成否」という言葉を聞いてわかりやすい表現に直し、その語句を選択する問題は無回答率が少し高かった。

書くこと

「意見文に対して出された指摘の理由として適切なものを選択したり、意見文を直した意図として適切な選択をする」問題では無回答もなく、正答率が高かった。しかし「伝えたい事実や事柄を書いたり、相手に効果的に書く」という問題では、無回答も少しあり、正答率も全国値を上回っているものの全体の中では他の正答率より低かった。

読むこと

無回答がなく、意欲的に取り組んでいた。概ね全国値と変わらないか、もしくは上回っている。特に「登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する」という問題では、全国値を大きく上回り、学習内容が定着していると考えられる。

言語事項

漢字を書く読む問題は概ねよくできていた。しかし、「手紙の書き方を理解して書く」問題が、全国値を下回り課題が見られる。

② B 区分問題（『主として活用』に関する問題）

《概要》

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の三領域の生徒の平均正答率は、全国値をすべての項目において上回っている。また、選択式、記述式ともに、正答数が高く意欲的な学習姿勢が伺える。

《各領域の成果と課題》

話すこと・聞くこと

すべての設問において正答率が高いが、記述式の設問はやや書き足りない傾向がある。

書くこと

書くことのすべての設問において正答率が高く、無回答率が低いが、条件を満たさず解答している生徒の数も多い。

読むこと

特に選択式の設問については、正答率が非常に高く無回答はないが、記述式の設問については、正答率が全国値を上回っているものの選択式の設問に比べると低い。

【国語における成果と今後の改善点】

文脈に即して漢字を正しく読むことは、しっかりできている。しかし与えられた条件を踏まえて、自分の考えを具体的に表現することに課題があると考えられる。そのため新聞のコラムや社説などから身近な話題に触れているものを読み、それに対する自分の考えを端的にまとめる練習や他の生徒と意見を交流するグループワークを通して新しい発想を得て、自分の考えを深める取組を行う。

（２）数学

① A 区分問題（『知識』に関する問題）

《概要》

生徒の平均正答率は全国値を上回っており、学習内容の理解は十分であると考えられ。また、無解答率が低く、学習に意欲的に取り組む姿勢が伺える。

《各領域の成果と課題》

数と式

平均正答率が全国値を大きく上回っており、学習内容が定着していると考えられる。

図形

平均正答率は全国値をやや上回っている。その中でも「与えられた式で体積が求められる立体をすべて選ぶ」という問題では、全国値を大きく上回っていた。しかし「垂線の作図で利用されている図形の性質を選ぶ」という問題は全国値を下回っており、理解・定着に課題が残る。また、「対頂角は等しいことの証明について正しい記述を選ぶ」という問題は全国値を上回っているが、正答率が低く、やや課題があると考えられる。

関数

「時間と道のりの関係を表すグラフから、速さが最も速い区間を選ぶ」という問題では正答率が全国値を大きく上回っていた。また「比例のグラフから、 x の変域に対応する y の変域を求める」という問題では、正答率が全国値を大きく上回っているものの、無解答率が全問題の中で最も高く、理解・定着に課題があると考えられる。

資料の活用

「セットメニューの選び方の総数を求める」という問題や「さいころを投げるときの確率について正しい記述を選ぶ」という問題では、正答率が全国値を大きく上回っていた。しかし「反復横とびの記録の中央値を求める」という問題では正答率が全国値を大きく下回っており、学習内容の定着に課題があると考えられる。

② B 区分問題（『主として活用』に関する問題）

《概要》

生徒の平均正答率は、全国値をすべての項目において上回り、良好な結果だといえる。また、無回答率もすべての項目において全国値より下回り、問題に取り組む積極的な姿勢が伺える。

《各領域の成果と課題》

数と式

整数の性質の設問では、しっかりと理解できていると思われる。しかし、筋道を立てて説明する部分においては、連続する3つの整数の和が中央の整数の3倍であることの説明にやや課題が残る。

図形

図形の証明を読み、新たな性質を見出すことはできていると思われる。しかし、平行四辺形になるための条件を用いて数学的に説明することでは、無解答率が高く課題が残る。

関数

表とグラフの関係・グラフを読み取る力は、定着していると思われる。しかし、事象を式の意味に即して解釈し、数学的に説明することには課題が残る。

資料の活用

資料から必要な情報を読み取ることはしっかりとできている。しかし、不確定な事象の起こりやすさの傾向を的確に捉え判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに、課題が残る。

【数学における成果と今後の改善点】

関係を式に表したり、値を求めることはしっかりと出来ている。数学的に説明することに課題が残るので、問題解決後にその過程を振り返り、数学的な表現を用いて説明するグループワークの活動を増やし、発展的に考察する場面を設定していきたい。

(3) 理科

《概要》

生徒の平均正答率は、全国値を上回る結果であった。無回答率も全国値を下回ったことから、学習に対する前向きな姿勢が伺える結果となった。課題としては、得意不得意な分野がはっきりしていることや、文章の読み取り・表現力が弱いところが浮き彫りとなる結果であった。

① 主として『知識』に関する問題

観察・実験の技能

計算を必要とするデータ処理能力を試される問題では全国値を大きく上回っていた。しかし記号を読み取る能力を試される問題では全国値を下回った。天気図記号を書いたり読み取ったりする練習が必要であると考えられる。

知識理解

正答率が高く、安定した結果を残すことができた。特に抵抗の計算問題では全国値を大きく上回った。しかし選択式の問題では、正解とかけ離れた選択肢を選んでいく割合が高いことから、生徒の理解度に大きな差があると考えられる。

②『主として活用』に関する問題

科学的な試行表現

生徒の平均正答率は、概ね全国値を上回る結果であった。短答式、記述式においても平均正答率は高く、無解答率は低いことより問題にまじめに取り組む姿勢が伺える結果であった。しかし、物理分野では、他の分野に比べて極端に正答率が低かった。特に目に見えない事象を理解し、理論的に説明する力に課題があると考えられる。作図を通した光や音の進み方の理解など、目に見える形にして指導していく時間が必要である。

【理科における成果と今後の改善点】

課題に対してまじめに取り組み、問題を解決しようとする意識の高さは普段の取り組みの成果といえる。しかし、演習問題に多くの時間を割く傾向が強く、実験結果からじっくり考察したり、意見を出し合いながら考えたりする場面が少なかつたため、理科的事象を結果から深く考え、自然の法則を導き出す能力の育成が不十分であったと考えられ。そのため、今後、実験の機会確保しつつ、時間をかけて一つの事象を掘り下げて考えていくような場面や時間を設定することや1年間（長い期間）をかけた自由研究などを通して、物事を深く探求する取組を行う。また作図を通した光や音の進み方の理解など、目に見える形にして指導していく。

2. 生活習慣や学習環境等に関する調査と傾向（経年比較より）

学習環境・生活習慣について

- ・家庭での学習時間が減少し、スマートフォンやゲーム等を使用する時間が年々増加傾向にある。
- ・図書室や図書館へ行く生徒の数は増加傾向にあり、地域行事に参加しようとする生徒の数も増加しつつある。

教科・学習について

- ・国語、数学ともに、授業の内容が分かると答える生徒の比率が年々減少していることに課題がみられる。
- ・国語の勉強が大切、将来役に立つと考える生徒が増えつつある。
- ・授業の中で、「生徒の間で話し合う活動をよく行う・自分の考えを発表する機会が与えられている」という項目については、年々向上してきている。

3. 今後の取り組み

「総合的人間力の育成」を目指して、義務教育9年間を見通す小中一貫教育を推進するとともに、教科に関する結果を踏まえ、習熟度別少人数授業やチームティーチングなど、一人ひとりに応じたきめ細かな指導や、わかる授業の工夫、学ぶ意欲を高める授業づくりをさらに進めてまいります。また、生活習慣や学習環境の結果を踏まえ、生徒の自主・自立と幅広い学習の機会を作るため家庭との連携を図り、家庭学習習慣の確立や思考力・判断力・表現力の基盤を支える読書活動・学校図書館教育の充実を図ってまいります。ご家庭におかれましても、ご理解とご協力の程よろしくお願いいたします。